

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	68人	算数	68人	理科	68人
第5学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

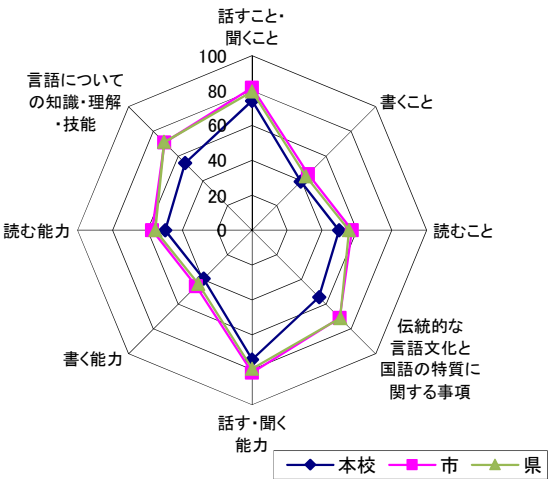
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	74.1	81.6	79.4
	書くこと	39.3	45.4	43.6
	読むこと	49.8	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.3	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	74.1	81.6	79.4
	書く能力	39.3	45.4	43.6
	読む能力	49.8	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	54.3	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

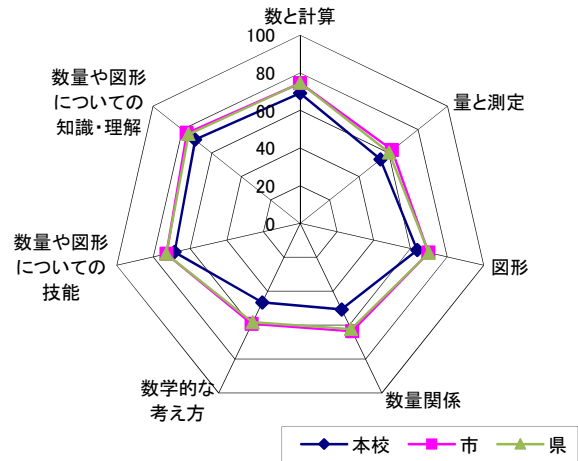
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は74.1%で、市を7.5ポイント下回る。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理することや理由を挙げながら筋道をたてて話すことは概ねできている。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行することに課題がある。	・司会進行の仕方を重点的に復習し、理解促進を図る。また、司会進行の役目に慣れさせるために、司会役は全員が経験できるように輪番制にし、習熟を図る。 ・授業中に小グループで話し合う場面を意図的に多く取り入れるようにする。
書くこと	平均正答率は39.3%で、市を6.1ポイント下回る。 ○文章構成を意識して報告レポートを書くことは概ねできている。 ●メモや友達の意見をもとに、報告レポートの内容を書くことに課題がある。	・日ごろから、人の話を要点を落とさずに聞くように指導する。また、メモをもとにレポートを書くときの重点事項をもう一度基礎基本に立ち返って復習し、理解促進を図る。 ・書くことへの抵抗をなくすために、単元の終わりに出てくる短文作りを繰り返し行ったり、行事などの後に日記などを宿題に出したりする。
読むこと	平均正答率は49.8%で、市を7.4ポイント下回る。 ○段落の要点を捉えて読むことは概ねできている。 ●中心となる語や文を捉えて読むことや文章の要点や細かい点に注意しながら読み整理すること、叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読むことに課題がある。	・物語文や説明文の読み取りでは、場面の移り変わりや接続語のつながりなどに着目させながら、要点をまとめるようにする。 ・登場人物の気持ちがあつかめるよう、細かい点に注意させたり、整理させたりする指導を繰り返し行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は54.3%で、市を16.8ポイント下回る。 ●漢字の読み書き、ローマ字による書き方について、定着が不十分であり、課題がある。	・全授業において、習った漢字は積極的に使うことを意識させ、実践する。また、国語スキルタイムや宿題、自主学習の中で既習漢字の読み書きの練習を繰り返し行うようにさせる。 ・国語の授業だけでなく、外国語活動の授業でローマ字を読んだり書いたりすることに慣れさせたり、パソコン室での授業で、キーボードでローマ字を打って練習する機会を設けたりする。 ・国語辞典の使い方を確認すると同時に、単元の始まりには国語辞典を使って意味調べをさせる機会を多くとるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	74.5	74.6
	量と測定	54.5	62.4	60.4
	図形	63.8	69.9	70.1
	数量関係	50.7	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	46.6	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	68.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	71.4	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

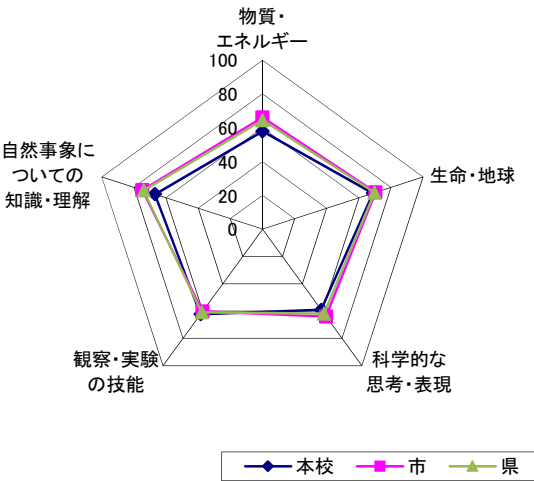
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は69.2%で、市を5.3ポイント下回る。 ○繰り下がりのある3位数－3位数の計算は概ねできている。 ●余りのあるわり算の確かめの式を完成することに課題があり、わられる数やわる数と商、余りの関係を捉えられていない。	・4年以降で学習するわり算のひっ算の学習で、除数・被除数・商・余りの関係を繰り返し確認し、文章題においても、どれが答え、余りなのか確かめながら学習させるようにする。 ・スキルタイムや家庭学習での四則のドリル学習に繰り返し取り組むようにさせ、計算技能の習熟に努めるようにする。
量と測定	平均正答率は54.5%で、市を7.9ポイント下回る。 ○重さについての量的な感覚は概ねできている。 ●中身と風袋の関係を捉えて中身の重さを求めること、具体的な問題場面での時間の計算に課題がある。	・具体物の操作を取り入れて、実際に測る活動や場面を視覚的に捉えさせることで、問題場面の把握ができるようにする。 ・重さや長さ、かさなどにおいて、1目盛りが表す大きさを確認させる。また、1目盛りを拡大して表し理解できるように指導を工夫する。
図形	平均正答率は63.8%で、市を6.1ポイント下回る。 ○正三角形の作図など、図形の描き方は概ねできている。 ●正方形に内接する円の直径や箱入りのボールの半径を求めるなど、円や球の直径や半径の求め方に課題がある。	・ボールなどの具体物や模型などを使って、円や球における直径や半径などの言葉の意味や関係の理解を促す。 ・分かっている数字や求める長さなどがよく分かるように、問題場面の提示の仕方を工夫する。 ・作業時間を十分確保したり、友達と学び合う学習形態をとったりするなど、さわる、動かす、測るなどの活動を大切にして指導する。
数量関係	平均正答率は50.7%で、市を12.8ポイント下回る。 ●未知数を□として、数量関係を線分図で表したり、□を用いたかけ算の式に適した場面を選んだりすること、目盛りの異なる棒グラフを比べて棒の高さをそのまま比べられない理由を説明することに課題がある。 ●活用の説明をする問題では、2問とも無解答率が20%を越えている。	・文章問題を考えるときに、わかっていること、わからないこと、求めることを明確にするために、問題に線を引く、声に出して読む、確認して書き出すなどの指導を繰り返し行う。 ・説明する問題への対応として、筋道を立ててよく考えたことを表現する力を付けるために、授業での書く場面を継続的に取り入れ、根気よく取り組ませる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.9	66.1	64.4
	生命・地球	68.8	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	59.2	64.1	61.9
	観察・実験の技能	62.3	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	66.9	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は57.9%で、市を8.2ポイント下回る。 ○ゴムのはたらきについて、実験結果からプロペラカーの進む距離やゴムのねじる回数を推測し選ぶことは、概ねできている。 ●ものと重さでは、道具(てんびん)の名称や物の形と重さや体積と重さの関係について課題がある。 ●電気の通り道を回路ということや、どのような回路にすれば明かりが付くのかの理解が十分でない。	・観察や実験の回数を多く設け、実験や観察で使う機器の名称を確認したり、一人一人が確実に機器の正しい操作方法を身に付けたりできるようにしていく。 ・ただ実験や観察をするのではなく、何を調べるために実験や観察をしているのかを考えさせながら活動を進めていく。また、実験・観察で調べた結果を正しく記録させていく。
生命・地球	平均正答率は68.8%で、市と同程度である。 ○昆虫の体のつくりや育ち方について、概ねできている。 ●かげのでき方と太陽の光では、道具(方位磁針)の名称や時間によるかげの変化について課題がある。 ●温度計の適切な使い方、日なたの温度計を選び、その理由を記述することに課題があるとともに、無解答も見られる。	・教科書等で実験器具の操作について説明し、一人一人が実際に実験器具を操作する場を設けるなどして、正しい操作の方法を理解させていく。 ・実験・観察した結果から、何が分かるのか、その理由などを考える場を多く設け、自分の言葉で考察して記述できるようにしていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力の中の「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答割合は、どちらも79.1%で、市を5.9ポイント、10.0ポイント上回る。

今後も学習意欲を高め、継続できるように、学習課題の提示の仕方や授業形態の工夫に努めるようにしていきたい。

○家庭学習力の中の「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答割合は88.1%、74.2%で、市を20.7ポイント、11.9ポイント上回る。

今後も家庭学習への意識の向上を促し、高学年に向けて内容の充実や時間について支援し、保護者の協力をお願いし、家庭学習力を高めていきたい。

○学級力の中の「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」の肯定的回答割合は77.6%、79.1%で、市を1.7ポイント、5.8ポイント上回る。

今後も、各教科や特別活動の学習の中で、伝え合い学び合う活動を意図的に取り入れ、コミュニケーション力の向上に努めていきたい。

●学びの基礎力の中の「自分は家族の大切な一員だと思う」「自分はクラスの人役に立っていると思う」の肯定的回答割合は89.6%、54.5%で、市を2.8ポイント、5.8ポイント下回る。

成功体験や協力の喜び、達成感を味わえるような場面を設け自信をもたせるようにしたり、家庭に児童のよいことを知らせてほめてもらったりして、自己肯定感が高まるようにしたい。

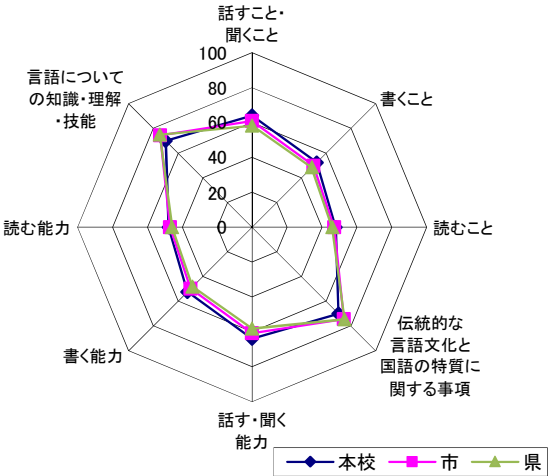
●学びの基礎力の中の「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答割合は89.6%で、市を6.2ポイント下回る。

朝食の大切さを児童に知らせ、家庭との連携を図り、早寝早起きの生活習慣と合わせて、心身ともに健康な生活を送れるように支援していきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.9	60.8	58.1
	書くこと	52.4	49.8	48.3
	読むこと	47.8	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	63.9	60.8	58.1
	書く能力	52.4	49.8	48.3
	読む能力	47.8	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	70.0	74.4	74.8



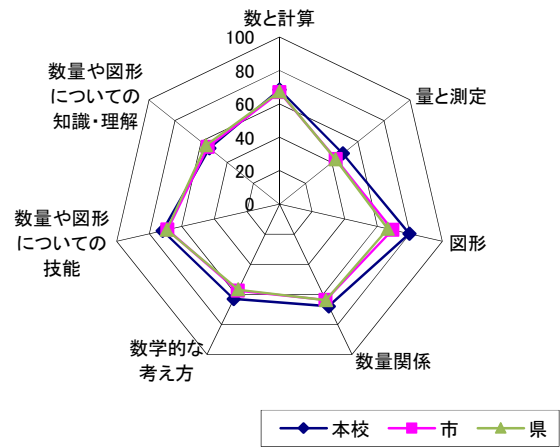
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は63.9%で、市を3.1ポイント上回る。 ○話し合いの中で共通点を考えて書くことは、できている。 ○司会者の役割を理解し進行する仕方を理解している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、授業や学級活動などにおいて、話し合い活動を多く取り入れていく。
書くこと	平均正答率は52.4%で、市を2.6ポイント上回る。 ○掲示物の内容に合う資料を選ぶ活用問題は、できている。 ○インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く活用問題はできている。	・今後も、各教科での新聞づくりや学習のまとめにおいて、構成や内容について確実に指導した上で、児童に工夫させながら書く活動に取り組んでいく。
読むこと	平均正答率は47.8%で、市と同程度である。 ○叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことはできている。 ●叙述を基にして、特徴的な描写を捉えたり、登場人物の描写から心情を想像して読んだりすることに課題がある。	・物語では、登場人物の気持ちや場面の様子の読み取りの際に、言葉や叙述に根拠を求めるよう意識させた指導を行い、読解力の伸長を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は70.0%で、市を4.4ポイント下回る。 ○漢字の読みはよくできている。 ●3年生までに学習した漢字の書きや構成に課題がある。 ●ローマ字の読み方に課題がある。	・新出漢字を学習する際には、漢字の成り立ちや部首の意味に触れることによって興味をもたせ、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・朝の学習や家庭学習で、教科書や漢字スキルにある前学年までの漢字の復習ページを活用し定着を図る。 ・朝の学習や家庭学習でローマ字の確認や復習に取り組ませる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.5	66.9	67.4
	量と測定	48.6	43.2	43.0
	図形	79.8	69.4	66.5
	数量関係	67.9	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	63.1	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	71.8	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	53.6	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

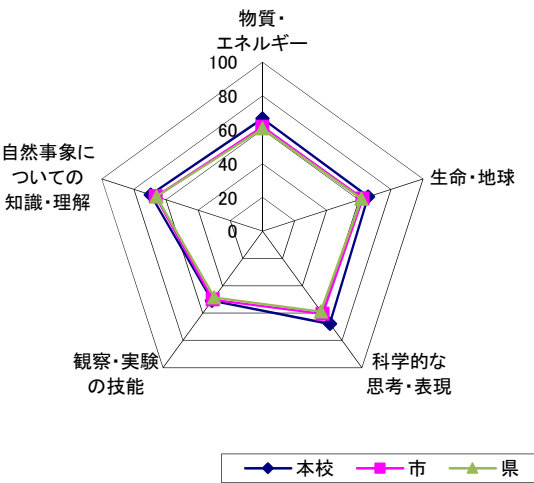
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は68.5%で、市と同程度である。 ○小数の基礎的な問題や計算に関しては、全体的にできている。 ●小数や分数の活用問題や、わり算の問題全般に課題がある。	・スキルタイムや家庭学習での四則のドリル学習に繰り返し取り組むようにさせ、計算技能の習熟に努める。 ・文章問題を解く際には、何を聞かれているのかに注意して解くために、問題文に下線を引き、立式するなど、立式までのポイントを押さえ指導していく。
量と測定	平均正答率は48.6%で、市を5.4ポイント上回る。 ○図を基にして考える問題は、よくできている。 ●はがきのおよその面積を選ぶ問題など、見当をつけて考えることに課題がある。	・単位変換や図形の面積の量感をつかませる基本的な問題を繰り返し指導し、考え方を定着させていく。 ・基礎的な問題のほかに、より複雑になった図形の面積の量感をつかませたり、文章題も課題として取り組ませたりしていく。
図形	平均正答率は79.8%で、市を10.4ポイント上回る。 ○平面上にあるものの位置を表す問題や、与えられた2辺の続きを書いて平行四辺形を完成させる問題は、よくできている。	・図形の書き方の練習をさらに行っていく。補助線があり、そこにコンパスや定規を使って図形を完成させていく問題や、1から自分で図形を書いていく問題など、様々な問題に触れるよう指導に当たっていく。 ・作図に充てる時間を十分に確保したり、友達と教え合ったりするなど、体験的な活動を十分に取り入れ指導していく。
数量関係	平均正答率は67.9%で、市を4.2ポイント上回る。 ○買った合計金額が一番少ない月を答える問題は、よくできている。 ●ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す問題の正答率は、市を上回っているものの、63.1%である。	・数量を数えて規則性を見つけ出すことに慣れていない様子が見られる。初めのうちは数を数え、いくつつ増えたり、減ったりするかなどを図に表して解く練習を繰り返していく。 ・数量の関係性に気付かず問題にあたっていると思われるので、数量の増減に気付くために、図表を使っの説明や解き方などを指導していく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.6	61.7	60.7
	生命・地球	65.8	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	67.9	60.6	58.9
	観察・実験の技能	50.9	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	69.6	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は66.6%で、市を4.9ポイント上回る。 ○水の温度変化と体積の変化の関連についての問題は、よくできている。 ○光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する問題は、よくできている。 ●方位磁針の適切な操作方法を答える問題に、課題がある。 ●白く見える物の正体が、水蒸気ではなく、湯気という液体と分かる問題に、課題がある。	・方位磁針など、実際に実験で使用する器具を使う回数を多く設け、実験や観察で使う機器の名称を確認したり、一人一人が確実に機器の正しい操作方法を身に付けたりできるようにしていく。 ・何を調べるために実験や観察をしているのかを考えさせながら、めあてやねらいを明らかにして授業を進めていく。また、実験や観察の結果を科学的に考え、捉えることができるように丁寧に説明したり、児童同士のグループ活動を通して理解を深めていけるようにしたりする。
生命・地球	平均正答率は65.8%で、市を3.4ポイント上回る。 ○1日の数時間ごとの月の動きを方位で表す問題は、よくできている。 ○気温の変化から天気の様子を推測し、理由を説明する問題は、よくできている。 ●オオカマキリの図と同じ季節のカエルのような、ヘチマのような図を選択式で答える問題に、課題がある。	・既習の内容や生活経験を手掛かりにして、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して関係付けて考えられるようにしていく。また、植物や昆虫の育ち方に共通する順序をきちんと理解できるように復習していく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力の中の「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答割合は86.9%で、市を9.6ポイント上回る。児童一人一人が学習の目標を立て、自己評価をする取組の成果が表れている。今後も、自主学習の積み重ねが目に見えるように「自主学習カレンダー」や「音読カード」、「計算ドリル」の記録などを活用していきたい。

○学びの基礎力の中の「時間を上手に使うことを、心がけている」の肯定的回答割合は91.7%で、市を11.2ポイント上回る。家庭でも時間を意識して、学習に集中して取り組もうとしている姿がうかがえる。「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答割合も91.7%、54.8%で、市を7.2ポイント、5.5ポイント上回る。意欲的に調べ学習や自主学習に取り組んでおり、今後も友達の自主学習を紹介したり、掲示したりするなど、自主学習の充実に努めていきたい。

○学級力の中の「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」の肯定的回答割合は91.7%で、市を7.9ポイント上回る。また、「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答割合も84.5%で、市を7.7ポイント上回る。学校全体で話し合い活動に取り組んできた成果や、学年で学級力アンケートを活用した学級経営に取り組んでいる成果であると考えられる。今後も話し合いの充実に努めていきたい。

●教科の好き嫌いについては、教科により異なる傾向にある。社会が好きと回答した児童の割合は59.5%で、市を7.0ポイント下回る。しかし、社会の授業の内容はよく分かったと回答した児童は89.3%であることから、今後、さらに学年での教材研究を進め、児童が意欲的に取り組めるような導入や教材の工夫を考えていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく表現する力の育成	全ての学年で、ペアやグループで互いの考えを伝え合ったり、相談したりする場を意図的に設けたり、自分の考えを書き表す活動を多く取り入れたりする。	4・5年生ともに、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答割合は、市を2～8ポイント程度、上回る。
基礎基本の確実な定着を図る指導	全ての学年で、基礎・基本の確実な定着を図るために1時間の授業の「めあて」を児童にしっかり提示し、授業の終末には「ふり返り」を書く時間を確保する。	5年生では「授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答割合は95.2%、82.1%で、市を5ポイント以上、上回る。一方、4・5年生ともに国語の「言語についての知識・理解・技能」、算数の「数量や図形についての知識・理解」において、市の平均正答率を4～20ポイント程度下回り、確実な定着を図ることが課題である。
家庭学習の習慣化への指導	家庭学習のヒント集を家庭に配付し、低・中・高学年で目指す家庭学習の時間や内容を知らせている。また、学年に応じて、宿題以外にも自主学習に取り組むようにしている。	4・5年生ともに、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答割合は、市を6～20ポイント程度上回り、家庭学習力が着実に定着してきている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、国語の漢字の書き、ローマ字の読み方や書き方など、言語についての知識・理解に関わる問題の中で、市の平均正答率を10ポイント以上下回る設問があるなど、知識・理解の確実な習得が課題である。	復習により定着を図る学習の充実	当該学年で習う漢字については、日常的に漢字のミニテストなどを行い、覚えていない漢字を明らかにした上で練習を行い、定着を図っていく。また、定期的に50問テストなども併せて行い、間違えた問題については復習・練習を行い、習った漢字を覚えられるようにしていく。 ローマ字の読み書きについては、国語の授業だけでなく日常的に読んだり書いたりする復習の時間を取り入れていく。また、外国語活動の授業においてもローマ字を読んだり書いたりすることに慣れさせることで定着を図っていく。